（1）　昭和30年10月11日（火曜日）　昭和30年6月23日 第三種郵便物認可　磐城日日　夕刊（除日曜）　第1419号

瓦斯会社設立檢討

今日工場誘致委で 協力要請事項審議

既報、磐城瓦斯会社（社長深山東八氏）を磐城に建設する事になり、敷地六千坪、総工費約一億円を以て着工する見込を立て、同社長深山氏よりこれが協力をしに要請していたが、しとしては本十二日午前九時より工場誘致委員会を開催しの態度を協議した。

これによると、同委員会は、この事業は公益事業であり、しとして協力する事に意見の一致を見たが同社より申入あつた、五項目の協力要請事項については、なお検討を要する点があり、約二ヵ月間の調査期間を得て、細部について同社に回答する事になつた。

同会社は敷地予定地を磐城し第二小学校裏附近を希望して居り、同地内は将来都し計画上住宅街となつて居るので、この予定地についても難点があり、同会社の設立については、県との関係もあるので明日、中田助役が出県、県当局と協議することになつた。

又海員組合の既定方針が、小名浜港中心なればそれに同調した動きをすると注目される態度に出た。

又一方全日本海員組合小名浜分室長柳楽氏が上京して、東京本部の状勢視察した結果、建設地の早期決定をしない場合には厚生省の予算二百万円も岩手県花巻地区の海員休息所に奪われるという緊迫した状況になつているので、昨日午後一時市役所市長室に於て市長代理中田助役を中心に日本水労、市労協、市会側より水産、港湾関係議員その他十二名が集まり善後策を講じた。

磐城市に海員の休息所のあるのは江名港、中之作港のみである協議内容は江名地区としても中之作に誘致することに全力をあげているので、その間を円満にやらなければならないと云う域を一歩も前進せずに、中央状勢にマッチしないような会議内容で終つてしまつた。

磐城に海員の休息所のあるのは江名港、中之作港だけであり、両者ともに県補助金により完成して現在使用され、小名浜港のみにないものである。

この問題はし名変更と共に若干政争の具につかわれているといううがつた見方をする人も一部におるので、し側の善処が要望されている。

緊迫した状勢下の 海員会館建設問題

小名浜第一小前の日本聖公会小名浜テモテ教会（加藤神父）が三千万円の建設資金を投じて小名浜港を中心にした汽船、機帆船、漁船の乗組員の休息所を作ろうと云う教会側と、全日本海員組合が主張し続けて来た海員会館建設とが、時期的に期せずして一致したので関係者に話題の種をまいたが、教会加藤神父が「海員組合の建設地が決定するまで、教会としては水産ホーム建設の態度を保留する」来る。

この急に全国知事会、県議長会市長会、市議長会、町村長会、町村議長会が合同して委員会を構成し、地方財政確立対策を協議、これが実現の為に政府に対し強力にはたらきかけることに者から注目されている。

赤字財政克服に 煙草消費税の増率

全国議長会理事会は去る四、五日の二日間、神戸市せん維会館に於て行われた。

磐城市議会議長、長瀬彰義氏（全国議長会理事）は加瀬事務局長を帯同、同会に出席中であつたが、昨日帰市した。

同理事会は、地方財政の赤字克復を重点的に協議を行つた模様である。

長瀬彰義氏（全国議長会理事）談

地方財政の窮乏は全国的な問題で、これを克復する方途は、地方交附税、煙草消費税の増率を引上げることにより年間五百億の地方財源の確保を計る事が出来る。

この為には全国知事会、県議長会市長会、市議長会、町村長会、町村議長会が合同して委員会を構成し、地方財政確立対策を協議、これが実現の為に政府に対し強力にはたらきかけることに

市名再檢討について

北尾政吉

一旦決定したる新市名とは云え多数の要望の下には変更、改定も又やむを得ざる次第と思います。

曽て合併前に市名決定上相当難航の折柄妥協に時日の余裕なく、江名側の強硬なる提案を無視するを得ず、円満なる合併の実現上新市名は即ち磐城市として一応妥決、公布されたのであつた、併し之は一時的の便法であつたかも知れぬし、日夜あくせくとして日を過ごし居る人々の心を和わげ得るよう小名浜在籍者の多数は現在の新市名（磐城）には最初より馴染み難い感じを抱いて居るのである。

以来一年半経過後の今日に於ても尚、且つ市名の再検討を要望するに至りたる理由には、大体左に要点を挙げて見ましょう。

イ、元来小名浜と云う地名は市の内外を問わず老若男女共通の要望で、至極妥当的な発音の妙味を有し、日夜あくせくとして日を過ごし居る次第である。

ロ、それ程万人愛好の地名を抹消して残更に漠然的で響くにも発信にもコツ〳〵として、現代離れした改正市名を、将来固守せねばならぬ場合には余議ない故、その際は小名浜以外の合併町村の如く将来は（磐城市小名浜町）として郵便物その他表札、名刺等に至る迄切に当局の再検討、善処を要望する次第である。

ハ結局再検討の結果にて尚、あくまで磐城の市名を存置せねばならぬ程の理由もないと思われる。各自便宜上依然として旧体制の如く小名浜と云う地名から離脱することは不可能の状態である。

ホ、小名浜以外と合併した町村は合併後に於ても各自の古有の町村名を保持せる状態である。

ニ、市政実施後に於ても小名浜の一、中、高の各学校等、或は乗客用バス、ガソリンカーに至る迄新市制後の町名変化の如何に拘らず各自便宜上依然として旧体制の如くの字は略字（浜）に一定したいのです。

ヘ、元来小名浜と云う地名は市の内外を問わず老若男女共通の要望で、至極妥当的な発音の妙味を有し、日夜あくせくとして日を過ごし居る人々の心を和わげ得るよう規定を要望する。尚、小名浜の浜な、真に親しみ深い地名と信ずるのである。

小名浜市を希望する

磐城市大字走熊　箱崎義雄

磐城市を小名浜市と改めることを希望する。旧石城の中に五市も市が誕生され、その中に一部の市が磐城市とは余りにも名が大き過ぎると思われる。

旧石城市の中に何市もある以上は社会一般は磐城市より小名浜市の方が最も通りが良いことと思う。小名浜の名は古くから何処にも通つているし交商工業、あらゆる面に於て小名浜市の方が有利である他国に行つて磐城市と言つても相手はピンと来ないだけに、不利なことを示している。

磐城市という名を認識させるには容易ならざるものがある、泉駅を小名浜駅と改めれば一層魅力を持たれる。

あらゆる文化を採り入れ、旧石城民が一丸となつて磐城市を建設してこそ、その名が最も相応しいものと思われる。

旧石城一円に電車を張り巡らし、社会一般は磐城市より小名浜市の方が最も通りが良いことと思う。

市職組 臨時大会

磐城し役所職員組合は十六日午後〇時三十分より、当日行われるし役所職員の体育会場に於て、臨時組合大会を行う事になつた。

組合結成以来、豫算其の他の重要な運動方針が決定していなかつた同臨時大会は次の議題を討議する事になつた。

一、三十年度豫算承認に関する件

一、自治労連加入に関する件

一、磐城し労協加入に関する件

其の他となつている。

港灯ブ標 設置協議

本日午後一時より小名浜海上保安部に於て港灯浮標の設置場所の協議会が開かれた。

この港灯浮標設置方は小名浜地区漁業協同組合が陳情していたもので、入港船の数が本県沖合がサンマ漁場になると増える折から関係

泉農協組 成績優良で表彰

第七回県下農協組大会は十日、福島市公会堂に四百農協組の組合長理事等代表者六百名、全国農業中央会長代理、県選出代議士等が参集して行われ

一、米の統制撤廃反対

二、農協自主態度確立強化

三、不振農協の整備刷新対策

三建議案を決議、今後強力な運動を展開することになつた。

同大会に於て優良組の表彰を行つた、優良組合としては五十九協組が表彰を受けたが、磐城市泉農業協同組合は「米コク事前売渡推進優良組合」「農業倉庫経営優良組合」及「第七回農協貯蓄額くらべ

サンマ値ハネ上る 魚群塩屋崎沖に南下

磐城市小名浜港は一昨日まで連日サンマの水揚でリヤカーも通れないほどの混雑さが続いていたが、昨十日の市場内は関古鳥も鳴く静けさで、十日朝からの入港船は僅かに第二飯国丸、真盛丸の二隻で水揚も三千貫余であつた。

サンマの群は以然南下を続け、先端は既に塩屋崎沖まで南下しているので、全船は金華山沖合から気仙沼沖三〇マイル附近に出払つているため、時によつてはこのような静かな市場風景が見られるのである。

そのためにホウ和状態のサンマ値が一躍ハネあがり高値八五円もする始末であつた。

明日電休

明十二日午前八時から午後一時まで、東北電力小名浜電業所管内は休電、となる。

天気予報

十日　晴後曇

十一日　曇後雨

十二日　雨

流潮

国勢調査は十月一日全国一斉に行われた。正しい調査が出来るようにと当局は、よく調査員を指導督励したはずだ。

然るに調査員の不慣れから、独立の生計を営む間借り人を単なる同居者として同一家族に取扱つたり就業者が税金の関係ある等と勘違いして、失業者と記入する例は相当に多い。

もう集計も略々出来上る頃であろうに、ここ磐城市松の中には、未だに調査票を集めもせずにその侭にしている実例がある。

ここの一家庭に一日になつて調査票が配られた。然しそれは調査員でなく小学校の女の小供が「これ置いて頂戴」と置いて行つた。勿論豫備調査等しない。その侭今日まで取りにも来ないのだ。無責任極まる調査員もあつたものである。折角の国勢調査が、斯様な不真面目な調査員のあることによつて不正確なものとなつてしまうのであるから決して疎々に取り扱うべき事ではない。市でも今後斯様な間違つた人選をせぬよう大いに注意する必要があろう。

各種火鉢 大量入荷 大特賣中 迎歓大懸賞 チケット
磐城市西町 ㋡渡邊陶器店 電六二八

店開 カフェー かめ
磐城市沖見町 伊勢屋向い
【求む】女中さん数名

☆サービス本位……
☆親切本位……

故父政一儀葬送の際は御多用中の処遠路態々御会葬下され且つ御鄭重なる御香料を賜わり御芳情誠に有難う御座いました
早速参上御礼申上ぐべき処略儀乍ら紙上を以て御禮申上げます
昭和二十年十月十一日
磐城市元分二千三
吉田屋旅館
喪主 吉田幹夫
外親戚一同

内科・外科・X線科
石井醫院
磐城市本町 電話四七二番
入院随意

店舗移転記念大賣出し
十月十日→十五日まで
靴の店スガワラが皆様の御愛顧と御支援のもとに中島通りに移転いたしました何卒旧に倍し御引立の程御願い申上げます
特別奉仕品 高級験士靴 一、五〇〇円
高級パンプス 一、八〇〇円
新製品豊富 婦人ビニール 三八〇円
靴の店 スガワラ
磐城市橋本 電話七七八番

開店の御知らせ!!
郷土色豊かな
江戸前 寿司
天婦羅を御用命願います
小料理
◇出前は一品でも遠近に不拘御届け致します
勉強の店 江戸前 立食歓迎
幸壽司
磐城市辨天横町 電話七八七番

浜通り高校辯論大会
入賞者論旨批判 ①

大村哲也

磐城日日にのつた「浜通り高校辯論大会」の入選者の論文を読む機会を得たので、それぞれの感想と率直な意見を述べてみたい。

先ず第一位玉村君の「歴史と我々の立場」は、実に論旨のつかみにくい論文だが結局、過去の歴史を学んだ上で現在をいかにすべきかを考える、と云う事らしい。私はこの様な考え方には賛成出来ない。

一体玉村君の「歴史」と云う概念規定は何なのだろうか、どうもた